

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



2011年
4月号



目次

- ☆外に出よう 2
- ☆虫めがね 3
- ☆活動報告・スケジュール 4
- ☆学習会報告 5
- ☆小野塚連載 6
- ☆和栗連載・夕会便り 7
- ☆編集後記 8



障害者は 外に出よう

巻頭文

みなさん、はじめまして。僕の名前は柳川敬事と言います。春です。春といえば桜です。桜の木の上にウグイスが止まって泣いています。素晴らしい光景が目には浮かびます。

障害者は外に出ようが今年五月二十二日に行われます。障害者二名に対し七～九名のボランティアで（一班十名前後）公共の交通機関を使い目的地に行って昼食や散策をして集合場所まで帰ってきてもらう行事です。今から約三十年前に風の子会独自で始めた行事が月日を重ねて、今では共催団体も増えて毎年百人前後の方に参加していただいています。またこの行事によってお知り合いになられたり、再会の場になっています。



当日までの流れを記しますと、数回の代表者会議（場所の選定）を重ね、ボランティアさんへの呼びかけをし、班分けをして、全体集会で班ごとの打ち合わせをして当日を楽しく過ごしていただきます。共通しているのは、朝はボランティアさんが障害者の自宅に迎えに行くということです。打ち合わせで大切なことは、「障害者に楽しんでもらう（どこに一緒に行こうか・そこで何がしたいのか等）」ということを頭の片隅に置いて打ち合わせに臨んでいただきます。沢山の皆様のご参加をお待ちしております。連絡は、風の子会までお願いします。

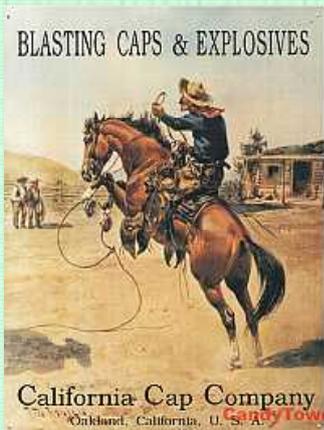


三木 直人

虫めがね

映画は今も殆ど見ませんが、見るとしたらジャッキー・チェンやブルース・リー等の実写系アクションものです。洋画（国外）物は基本見ません。テレビはバラエティやクイズ系ばかりで、ドラマは殆ど見ません。アニメならテレビも劇場版もよく見ます。特に深夜アニメはほぼ毎回（毎クール）見えます。ツタヤのネットレンタルで沢山（六十種類ほど）のアニメを同時進行で見るほどアニメは大好きです。ラジオは画が無いというのが苦手で聴きません。

田村 亮彦



私の好きな TV 番組は現在は殆どありません。強いて云えば 10chの「相棒」くらいです。十数年前の日本のTV界は、自己資金に乏しかったらしくて、外国からフィルムを借りてそれに日本語の吹き替えをつけて、色々なジャンルを放映していました。私の好きなジャンルは西部劇の「ローハイド」と、ホームコメディの「ビーバーちゃん」でした。

太田 圭子



私の好きなテレビ番組は、海外の綺麗な海や山・観光地等を紹介する番組です。動物と共存共栄していることと自然が守られているのでとても感銘を受けます。

地球を大切にしないで・・・。

と言う気持ちにさせられます。番組を観ていると徐々にではありますが、地球環境が大幅に変わり（特に氷河が溶けだして）動植物が生きられなくなっているそうです。これは人間の私利私欲が招いたツケですね。

三木 直人



活動報告

ここ数年に比べて今年の冬は寒さが厳しく、メンバー、職員共に体調を崩して休んでしまうことが多かったように見受けられた。風邪をひいてしまうのは仕方ないが、自己管理はもう少し意識した方がよいのではと思われる（これは僕自身に対する反省の意味も含まれる）。

昨年末から作業所の模様替えが行われていて、試行錯誤を繰り返しながら少しずつ部屋が綺麗になっている。リフレッシュすれば気分もまた新鮮になるし、メンバーにとって、ボランティアにとって、職員にとって利用しやすい作業所になれば、それはいいことであるはずだ。

室内での喫煙は数年前に禁止になっているが、ベランダでの喫煙に対してもルールが厳しくなってきた。周囲に対する気配りをより強く意識していかなければならないと心に固く誓った。

スモーカー・塚

スケジュール

3月8日(火)

運営委員会

学習会 便り

ムと板チョコを買って来て、それをみんなで砕いて、円球状に練り直していただきました。普通の板チョコに生クリームを入れただけなのに、どうしてあんなに美味しかったのか僕には分かりません。



二月二日、豆まき。豆まきをした後、職員さんが節分についてのお話をしてくれました。

二月九日、ちょっと早かったのですが、バレンタインデーで職員さんが生クリー



二月十六日、カラオケ。高浜実習所にはカラオケセットがないため、ヒューマンプラザに行ってみみんなで歌ってきました。

二月二十三日、この日は前半にイタリアの勉強をしました。イタリアは僕が行ってみたい所なので、すごく興味がありました。特に男性が女性にお茶を渡すとき、跪いて渡すという事が興味深かったです。日本でもイタリアのような風習で男性が女性に対して紅茶やコーヒーを跪いて渡すようなサービスをする喫茶店があってもいいなと思いました。

後半は岡本副会長が前に教えてくれたボッチャというスポーツをみんなでやりました。みんな張り切って新しいゲームを楽しみました。

太田 稔



わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第35話 蓼科に着いた！（実はまだ中編）

中央本線茅野駅を降り、ローカルバス乗り場を探す。ビーナスラインを走って蓼科湖畔までは1時間弱といった距離だ。「3月といってもまだけっこう寒いですね」「この辺りは標高が高いからな」「ツカシ、あの山なに？」車窓から見える山を指差しながらトモが訊く。「あれが蓼科山だよ」特徴的な稜線を描くその山は、すぐ見分けがつく。「けっこう遠いね」「いや、蓼科湖は、あれより少し手前にある湖だから」ゆらゆら揺れながらのんびり続くバス旅は、もうしばらく続いた。「着いたら、どうするんだ？」あと少しで蓼科湖が見えてきそうな頃に、イチが口を開いた。「そうだな。部屋に荷物を置いて、そのあと湖を見て回ろうか」蓼科湖の少し手前にあるカントリークラブ前をバスは走り抜ける。

ほどなくして湖畔前の停留所にバスは着く。荷物を抱えたままで動き回るのは手間がかかるので、とりあえず宿泊先へと向かう。チェックインを簡単に済ませて部屋に入る。「わあ、広い部屋っすね」「和室と洋室の2部屋あるからな」「ツカシ、湖が見える！」バルコニーに飛び出しながらトモがはしゃいでいる。「日暮れまでまだ少しあるし、行ってみるか？」マルボロを啜えながら僕が促し、3人が応える。

一服した後、蓼科湖へと向かう。部屋から湖畔までは、歩いていける距離だ。「空気がきれいですね」ヒロセ。「でも、ちょっとさみいな」イチ。「道端にあちこち雪だまりが残ってるんだから、寒くて当たり前だろ」「あ！ 見えてきた！」。蓼科湖は、それほど大きな湖ではないが、周囲を白樺に囲まれ、蓼科山や八ヶ岳連峰も眺める事ができる、ロケーションの素晴らしい湖だ。「一周してみないか？」湖畔にサイクリングロードがあり、貸自転車でぐるっと回れるのだ。

シーズンからややずれているせいか、湖畔にある土産屋にはまばらな客しかいなかった。何軒かの店を通り過ぎ、貸自転車屋を見つける。それぞれに自転車に乗って湖畔サイクリングに向かう。「気持ちいいー！」「氷は張ってないんだ」「イチ！ ヒロセを追い抜くぞー！」「おいおい、無茶すんなよ」春の始まりのにおいやざわめきを感じながらロードを駆け抜ける。半周したあたりで自転車を停めて湖を眺める。「一望できますね」「なかなかの見晴らしだろ？」「ああ、体動かしたら、ちょっとあつくなってきた」言いながらイチがセブンスターを啜えたので、つられて僕もマルボロを取り出して火をつける。「あ！ 湖に映ってる！」トモがそう叫ぶ。湖の向こう側に僕らが泊まるホテルがあり、それが水面に鏡のように映し出されている。「きれいっすね」「みんなで撮ろっ！」セルフタイマーで湖とその奥にあるホテルをバックにしながら「はい、ちーず！」カシヤリ。

湖から視線をそらすと、道のはずれに残っていた雪を見つけた。気温が低いせいか、新雪がそのままの状態でも積もり残っている。「わあ！」「5、6センチはあるかな？」「こんなにきれいな雪見るの、久々ですね」。マルボロを啜えたままで足を踏み入れてみる「っとと・・・意外と深いな」心配げにイチが「あぶねえぞ」といい、「なら、手貸せよ」と伸ばした僕の手を当然のように掴んだイチを見て、僕はニヤリと笑いながらその手を引っ張る。「わわ！ ツカシ何すんだ！？」バランスを崩したイチは、雪の中に転がり込む。「はっはっは！

毎度毎度のお約束ということで！」「あいかわらずだね」「ま、そういうことで」雪まみれになったイチを笑いながら、旅の始まりとしては、それほど悪くないなと思い始めていた。

～ まだつづく ～

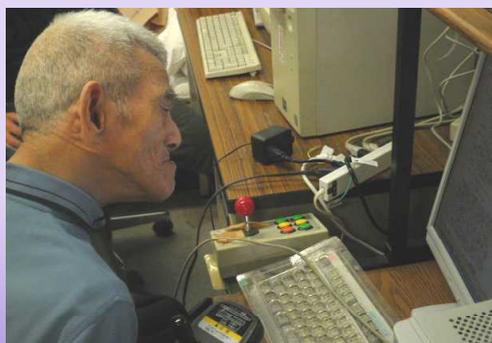


あんパン物語

靖衛門は、父 弥左衛門に横浜へ行くことを話すと、父 弥左衛門は、機嫌良く許してくれた。翌朝まだ暗いのに 父 弥左衛門 家族そろって見送ってくれた。靖衛門はみんなに別れを告げると、仲の良かった ちゅうげんの 政蔵が、大木戸で見送ってくれた。品川宿まで来ると夜が明けた、木村靖衛門は、一路横浜へと、向かった。日本の夜明けも近い、慶応二年 春のことであった。

第二回に続く

栗 あきら



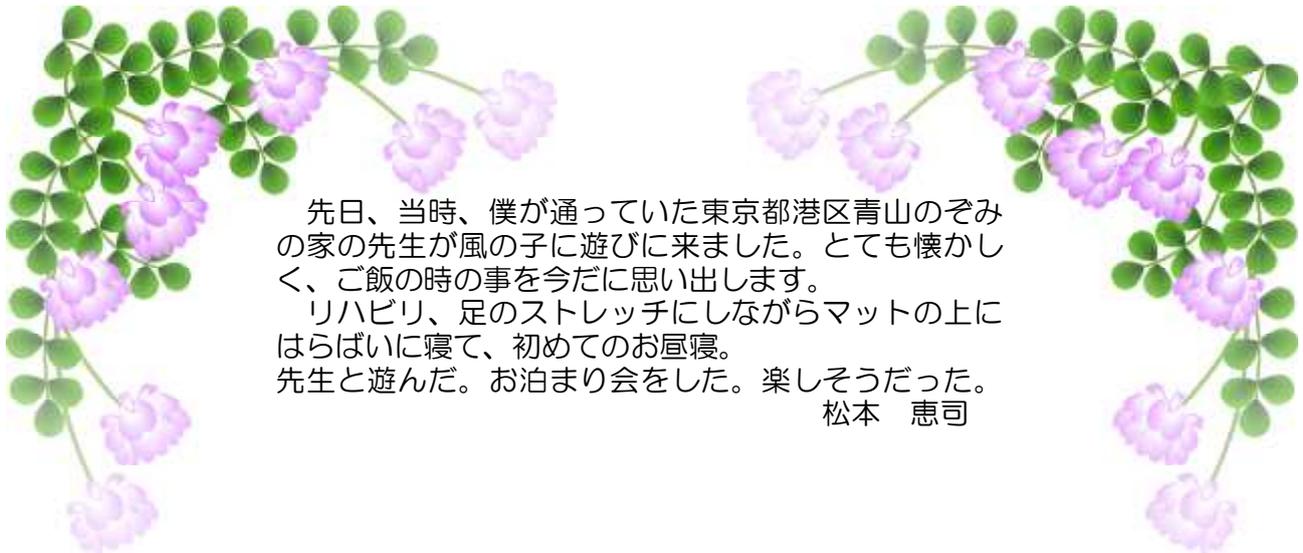
夕会便り

二月十九日【ノロウィルスとメンバー給与について】

ノロウィルスと花粉症について、保健婦の岸田さんの方から説明や対処法などを話していただきました。ノロウィルスに感染をした場合の対処法などを学びました。花粉症については、スギやブタクサの花粉の種類を教わり、対処法などを教えていただきました。そして、利用者への給料報酬や分配について、事務局長の井出さんより報告がありました。

二月二十六日【外に出ようキャッチコピー】

キャッチコピーを皆で考え沢山の案を出し合った結果、其の内の五つを本会議に提出し、最終決定をしてもらいます。



先日、当時、僕が通っていた東京都港区青山のぞみの家の先生が風の子に遊びに来ました。とても懐かしく、ご飯の時の事を今だに思い出します。
 リハビリ、足のストレッチにしながらマットの上にはらばいに寝て、初めてのお昼寝。
 先生と遊んだ。お泊まり会をした。楽しそうだった。
 松本 恵司

編集後記

まこのおにいちちゃんはやさしいです。赤ちゃんの時から遊んでくれました。それはいえませんが、まこはずっといっしょに遊べたからお兄ちゃんのこと大好きだった。パパのことも大好きだった。

右田 磨子

僕の好きな食べ物は何もありません。僕のは美味しいし、早く作れます。僕が一番食べたいのは中華メンチです。中華メンチ井とはご飯の上に掲げたのメンチカツを載せ、その上に中華あんかけをかけて出来上がりです。

柳川 敬事



ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

編集者
 柳川 敬事
 吉田 久
 右田 磨子
 松本 恵司
 田中 聡
 小野 圭
 太田 航子
 佐田 間
 久田 亮
 太田 彦
 栗原 史
 幸高 郎
 三木 直
 田村 亮
 幸高 史
 和栗 郎

編集人：【高浜生活実習所】
 生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砧6-26-21

